

約束

東広島市立西条小学校

第5学年 川野 伸

約束

五年 川野 伸

「今年の学習発表会は、ナレーターをするよ。」
「伸君、がんばりなさいよ。じいちゃんも元
気になるようにがんばるから。」
「うん。がんばる。約束だよ。」
去年十月、初めておじいちゃんのお見まい
に行うた時、ぼくは「おじいちゃん、約束し
ました。この時、早く元気になりますよ。」
に「と願い、約束をちゃんと守ろうと心にち

東広島市立西条小学校

かいました。

おじいちゃんが入院した時、おばあちゃん
は、

「すぐ退院するからお見まいはいいよ。」

と言っていたが、しばらくして、お母さんが

「おじいちゃんのお見まいに行くよ。」

と言ったので、おじいちゃんに何かあったの？

と心配になりました。けれど、お母さんが、

「お姉ちゃん、おじいちゃんに会いたいんだって。」

と言ったので、おじいちゃんにはさみしがりや

だなど思いました。それに、初めてお見まい
に行った時、少ししんどそうに見えたが、い
つものおじいちゃんだったの、ほくは、安
心していました。だから、一度目のお見まい
からなかなかお見まいに行くことができませ
んでしたが、行かなくても大丈夫と思ってい
ました。

しかし、二週間後、お見まいに行った時、
ほくはびつくりしました。なぜなら、おじい
ちゃん、一人部屋に移り、心電図モニター

東広島市立西条小学校

を装着していたからです。そして、おじいち
んはねむっていました。ほくは、不安でたま
らなくなりました。

すると、おばあちゃんが、
「おじいちゃんは今、眠たくなる点滴をしてい
るから眠っているんだよ。」

と言ったので、少し安心しながらほくは、
「おじいちゃん、来たよ。伸だよ。」

と話しかけると、おじいちゃんは目を開けて、
「おっ、おっ、よく来たね。」

と返事をして、また、目を閉じました。ぼくは、おばあちゃんに言ったことを信じて、この時、何も疑いませんでした。

それから四日後、おばあちゃんとお母さんが電話で話をしている時、お母さんが突然泣き出しました。ぼくは、おじいちゃんに何かあったのだと察しました。

お母さんが、

「じいちゃんに死んだんよ。」

と言った時、冗談であってほしいと思っただが、

東広島市立西条小学校

初めて見る泣いてるお母さんの姿を見て、本当なんだと実感しました。どうして…じいちゃん約束は？ぼくは、ちゃんと約束守ってるよ。くやしさと悲しさで涙が止まりませんでした。

「実は、じいちゃんにがんだったんよ。」

と、お母さんが、おじいちゃんの病気について話してくれました。一番おどろいたことは、おじいちゃんに自分の余命を知っていたことです。お母さん達も知っていて、ぼくとお姉ちゃんには内緒にしておく事をおじいちゃん

と約束していたそうです。

お母さん達は、

「じいちゃんは、すぐに元気になるから。」

とよく言っていました。もしかするとこの言葉には、一日でも長く生きてほしい、奇跡が起きてほしいという願いがこめられていたかも知れません。ぼくの前では、いつもと変わらないお母さん達でした。心の中では、毎日、願っていたのだろーうと思ひました。そして、おじいちゃん、ぼくと約束をし

東広島市立西条小学校

た時、

「がんばるんだよ。」

と何回も言っていました。もしかすると自分

自身に言い聞かせていたのかもしれない。

余命が分かっているとおじいちゃん、病気に

立ち向かって一生けん命生きようと、最後

まで、ぼくとの約束を守り続けたと思うと、

さうに、ぼくは、顔がぐしゃぐしゃになるく

らい泣きました。

ひつぎの中のおじいちゃん、話しかける

と、起き上がったてくるような気がしました。
しかし、話しかけても目は閉じたまま。本当
に死んでしまったんだ！もっともっとお見ま
いに行けばよかった。手をしっかりにぎれば
良かった。ああすれば良かった、こうすれば
良かった。たと後悔の気持ちでいっぱいになりま
した。ぼくは、話しかけることができなくな
り、おじいちゃんをじつと見つめることしか
できませんでした。

そう式の次の日は、学習発表会でした。ま

東広島市立西条小学校

だ悲しい気持ちから、立ち直ることができま
せん。でも、おじいちゃんとの約束を守らな
いと。そう思いながら学校へ行きました。

教室へ入ると、

「伸、元気になったか？」

など、友達が次々に話しかけてきました。ぼ

くには、こんなに心配してくれる友達がいる！

友達の存在は、とても有り難かったです。お

かげで、気持ちのきりがえができて、おじい

ちゃんとの約束を守ることができました。

おじいちゃんには、最後まで病気に立ち向か
いました。「何事も決してあきらめずはだ目
だよ、伸べと、おじいちゃんから言われたよ
うな気がしました。だから、今、自分のやる
べき事、やれる事は、何事も一生けん命しよ
うと思います。

おじいちゃん、天国から見守っていてね。
約束だよ。

指導者の言葉

国語科「一つの言葉から」の学習で、書くことの題材を探したり、自分の考えにふさわしい言葉を選んだりするために「連想メモ」を使って発想を広げることを学習しました。

その後、日々の生活の中でどのような出来事があったかを振り返り、連想メモからふくらませて文章を書く活動を継続して行い、国語科で書いた生活作文です。

本作品は、入院したおじいちゃんと「ぼく」との約束を軸に、おじいちゃんが死を迎えるまでの自分自身や家族の心情の変化が時間軸に沿って表現されています。後半は、おじいちゃんの「死」に悲しむばかりではなく、「死」に向き合い、前向きに進んでいこうという気持ちや友達への感謝が表されており、今後の決意が伝わる作品になっています。

本校では、課題発見・解決的な学習を意識した単元作りに取り組んでいます。国語科においても、主体的・協働的な学習にするため、効果的な言語活動を設定し、話し合いの指導や書くことの指導の工夫を行っています。書くことの指導に当たっては、書く必然性のある場の設定、書くための具体的な技術の指導を継続して取り入れています。国語科だけでなく、他教科や教科外活動及び学校行事など日常の生活に書く活動を意図的に取り入れ、習得した学びを活用させることでより確かな書く力の定着を図っていきました。

また、優れた表現と出会い、豊かな表現力を培うため、俳句作りや読書の推進にも力を入れています。全校での俳句の表彰、ページ数や冊数の目標を設定して記録する「本の旅ノート」の取組を日常的に行うとともに、家族と一緒に本に親しむ「親子読書」の取組を行っています。

このような全校での取組を通して、表現する喜びを味わい、更なる表現力の向上につながるよう指導しています。